

成果の説明書

(氏名) 岡田知之

(学部) 経済学部

1 重要事項

現在、考察を行っているのは次の2点である。

まず、第1点目は、国際経済学などで、貿易を行うことにより双方の国がより豊かになること示す際に用いられる考え方である比較優位説の拡張である。比較優位説では、2国が2財を生産、消費する状況を念頭において、分析が行われている。この考え方によれば、両国間で生産性に違いがある場合（たとえ一方の国が他方の国と比較して2財とも生産性が劣っていたとしても）両国が相対的に生産性の高い財の生産に特化し、それぞれの国が生産した財を輸出しあうことにより、両国とも、（貿易を行わない場合と比較して）豊かになる。（両国の財に対する好みをふまえて考察を行えば、一方の国が一方の財の生産に特化し、他方の国が2種類の財を生産する可能性があることも示すことができる。）

比較優位説で用いられている2国2財のケースにおける考察をより一般的に、 m 国 n 財のケースの拡張することができれば、貿易のパターンや、不完全特化が生じるケールに関して、理解が深まるのではないかと考え、この考察を行いたいと思うようになった。考察の進捗状況に関してであるが、残念ながらあまり進んでいない。当初は、2国2財の考察を行うときに使われることがある生産可能性フロンティアを、 m 国 n 財のケースに拡張し、拡張された生産可能性フロンティアを用いて一般的なケースについての貿易のパターンを特徴づけることができるのではないかと考えていた。しかし、考察を進めるうちに、 m 国 n 財のケースにおける生産可能性フロンティアを求めることが簡単なことではないことがわかってきた。 m 国2財のケースであれば、比較的容易に生産可能性フロンティアを求めることができる。そしてこの生産可能性フロンティアを用いることにより、貿易のパターンは、① m 国は一方の財を生産するグループ、他方の財を生産するグループに分けることができ、生産した財を輸出しあう、② m 国は両財を生産する国（もしくはグループ）、一方の財を生産するグループ、他方の財を生産するグループに分けることができ、生産した財を輸出しあう（ただし、両財を生産する国（もしくはグループ）は、貿易を行わない。）という①、②のどちらかになることを示すことができる。しかし、 m 国3財のケースになると、考察が困難になり、現状ではこのケースにおける生産可能性フロンティアの特性を把握できていない。

今後は、2国3財のケースや3国3財のケースにおける生産可能性フロンティアの特性をふまえながら、 m 国3財のケースにおける生産可能性フロンティアの特性（そしてもし可能であれば m 国 n 財のケースにおける生産可能性フロンティアの特性）を見出し、生産可能性フロンティアの特性をもちいてこのケースにおける貿易のパターンの特徴づけを行うことを目標に、考察を続けたいと考えている。

第2点目は、特許期間と経済成長に関する考察である。研究開発は新技術を生み出し、それが経済成長の原動力となる可能性がある。しかし、国内の人的資源には限りがあるため、研究開発の実施も限定的となる可能性がある、この考察では、国内の人的資源を有効に活用するため、途上国との貿易を行うケースを念頭においている。研究開発や特許期間が有効な財の生産は基本的に国内でおこない、特許期間がきた財は途上国から輸入するケースを念頭におくと、（研究開発をつうじた）経済成長を最大にする特許期間が見いだせる可能性があることがわかる。

特許期間が十分に短い状況から特許期間を延長すると、研究開発が促され、経済成

長率が高まることが期待できる。しかし、特許期間が十分に長い状況から特許期間を延長すると経済成長率が低下する可能性がある。特許期間が長くなりすぎると、(消費者が財の多様性を好むのであれば) 特許期間がきれた財の希少性が高まり、この財の価格上昇、ひいては途上国の賃金上昇が生じて途上国の価格競争力がなくなり、自国でも(研究開発に割り当てるべき人的資源を犠牲にして) 特許期間が切れた財の生産が行われるようになる。この状況から、特許期間を引き延ばすと、研究開発に割り当てることができる人的資本がさらに減少し、研究開発のスピードが減速し、経済成長率が低下する可能性がある。以上のように特許期間が十分に短い状況から特許期間を延長すると経済成長率が高まり、特許期間が十分に長い状況から特許期間を延長すると経済成長率が低下するならば、経済成長率を最大にする特許期間を見出すことができる。

この考察は、見通しがたっているので、できれば、何らかの形にまとめたいと考えている。

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

次年度以降も比較優位説の拡張に関する考察を続ける予定である。また、可能であれば、特許期間と経済成長に関する考察を何らかの形にまとめたいと考えている。